

自分と他者の違いに気づき対話を通して豊かに関わり合う子どもの育成 ～4年生国語「ごんぎつね」の実践を通して～

熊本市立一新小学校 4年部

要約

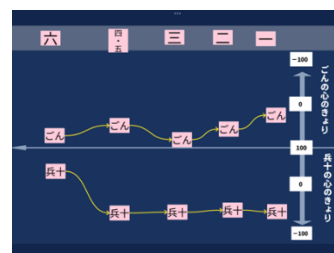
東京書籍4年生国語「ごんぎつね」の言葉の力は「人物同士の関わりについて考える」である。しかし、この言葉の力は子どもにとって非常に課題として捉えにくく自分の考えを作ることが非常に難しいと考えた。

本実践を通して、タブレット端末を活用することで、子どもたちが登場人物の関わりについて自分の考えを持ち、言葉による見方・考え方を働かせ、お互いの良さを実感しながら対話活動を行うことができることが明らかになった。

〈キーワード〉国語科、対話活動、タブレット端末、言葉による見方・考え方

1、授業の概要

本実践では人物同士の関係を捉えやすくするためにタブレット教材を用いた。(図1) この教材を用いることにより、ごんの気持ちの変化だけでなく、兵十とごん2人の関わりに目を向け、自分と他者との心の距離の違いについて対話活動を行うことで対話の質が高まり言葉の力を身につけることができるのではないかと考えた。



【図1 心の距離シート】

さらに心の距離のシートを2枚準備し、初読の後に1枚目のシートに1～6場面全ての2人の心の距離について考えてみることにした。授業では2枚目の心の距離のシートを使った。1時間の授業の導入で2人の心の距離を決めて、その心の距離をもとに対話をし、全体共有する。終末でもう一度心の距離を考えて再提出することにした。このように単元での最初と最後、授業での導入と終末で自分の変化がわかることで自分の学びの変容を自覚できるようにした。

2、実際の授業場面から

2人の心の距離を考えるために「この数値の時には、どんな気持ちかな？」とクラス全員で基準をつくった。このことを行うことで一つの明確な基準の中で対話活動を行うことができるようにした。(図2)



【図2 心の距離の基準】

対話場面では、自分の心の距離に納得してほしいために、教科書の本文から根拠とセットにして対話活動を行っていた。全体共有は、

心の距離とセットで根拠を話す姿を見ることができた。全体で共有する場面では、「この文章からごんは、こんな気持ちだから」や「その文から、Aさんはこう言ったけど私は〇〇だと考えたよ。」など一つ一つの言葉にこだわって考える姿を見ることができた。

3、実践を振り返って

心の距離を考え、タブレット端末で表し、一つ一つの言葉にこだわって考え、対話活動を行うことで子ども自らが言葉による見方・考え方を働かせることができていた。また、心の距離の違いを友達と対話する中で、友達の良さや考えの面白さに気づくことができていた。しかし、教師が心の距離だけに固執するのではなく、根拠もとにしてに考えを作るように促すことが大切であると考える。